

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892300043		
法人名	株式会社やすらぎ		
事業所名	グループホーム松風		
所在地	兵庫県三木市吉川町有安303		
自己評価作成日	平成30年11月13日	評価結果市町村受理日	平成30年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成30年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「笑顔あふれる家族」を達成するために、明るい家庭的な雰囲気の中で職員ひとり一人が笑顔を忘れず、ご利用者の心からの笑顔を引き出せるよう接している。また、当施設は大自然に囲まれた中にあり、日本で環境の一番良い場所に位置している。施設内の畑では四季折々の野菜を作っている。ご利用者と収穫や料理などを行うことによって、作る喜び食べる喜びを感じていただいている。ご利用者様ひとりひとりの思いを大切に、その人らしく安心して心穏やかに過ごしていただけるように配慮し支援している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かで静かな環境にあり、地域の住宅街が見渡せる小高い場所にある。事業所前は広大な土地が広がり、散歩や外気浴にも安全な場所である。玄関や廊下、リビングも広々として落ち着いた空間である。「笑顔あふれる家族」の理念のもと、職員の笑顔で自然と笑顔になれる雰囲気がある。又、「一人一笑顔」や職員のやる気を起こす言葉などが掲げられ、理念を意識した職員の利用者に対する思いが伝わってくる。管理者は一人一人の利用者に対し、“ここで安心して過ごせる喜びを感じて欲しい”との強い信念を持ち、全職員も思いを共有し事業所全体で取り組んでいる。今後も、豊かな環境と豊かな感性で、利用者から多くの笑顔が見られるよう日々研鑽を積み、グループホーム日本一を目指し取り組まれることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔 あふれる 家族」の理念をホーム内に掲示し、職員が常に意識し実践できるようにしている。ホームに関わる全ての方に思いやりの気持ちで接するように心がけている	事業所の理念は玄関や事務所等に掲示し、パンフレットにより外部にも発信している。「笑顔あふれる家族」の理念のとおり、職員は笑顔で利用者や家族に接している。利用者の思いを受け入れ、安心して過ごせる居場所作りを心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回の夕涼み会の実施。 月1回のパンの移動販売を実施してもらっている。地域の道づくりへの参加。 地域の方に月1回ボランティアでフルート演奏等に来ていただいている。また、ご近所から季節の野菜など頂く。地域の店に利用者様と一緒に買い物に行っている。	自治会に加入し、道作り(道路作業)等の行事や会議に出席し、認知症に関する情報発信をしている。毎月障がい者施設から手作りパンの移動販売車が来所し、利用者はパンの購入を楽しみにしている。地域住民を事業所主催の夕涼みの会(夏祭り)に誘ったり、定期的にフルート演奏やハンドマッサージ等ボランティアの来所がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症介護の事でお困りの方はご相談ください」と、地域の広報誌等に記載し呼びかけている。地域の会合に出席して認知症に対する理解を深める活動をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回定期的に運営推進会議を開催し、活動報告・ヒヤリハット報告・情報交換を行い、出された意見を参考に改善できる様取り組みサービス向上に生かしている。	運営推進会議には、利用者、家族、地域代表、民生委員、地域包括に加え、交流のあるグループホーム職員が出席し、事業所からの報告や出席者より情報提供がある。地域からは通行止めや行事等の連絡がある。市や家族への議事録送付はしていない。市職員の会議出席はない。	参加していない家族に、議事録送付をされてはどうか。市に運営推進会議の出席依頼をされてはどうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で定期的に情報交換する機会があり、その他 不明な事があれば電話やメールで問い合わせ連携がとれている。	管理者は市の窓口再三出向き、電話での問い合わせも含め、心安い関係性作りを心掛け良好な関係にある。地域包括からは情報誌等の資料の提供を受けている。グループホーム連絡会に参加し、情報交換や交流の場になっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・門にセンサーを設置し、安全に過ごして頂けるよう配慮している。ご利用者の言動に留意し対応している(夜間は、防犯対策の為施錠行う。)	身体拘束廃止委員会を設立し、3か月に一回会議を開催している。日中、門扉は状況等を考慮し施錠することがあるが、玄関は施錠していない。安全を考慮してセンサーマット使用者がいるが、家族の了解は口頭でのみ伝え記録はない。	会議録は他の研修記録と分けて綴られてはいかがか。 センサーマットの使用状況の記録を残し、外す方向に向けての検討を継続して欲しい。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を設置し、教養の機会をもてている。職員のストレスがないように職場環境造りに努め、何事も話しやすい環境づくりに留意している。また、小さな変化を見逃さないようにしている。	高齢者虐待防止の研修会を実施し、実践に繋げている。管理者は対応の難しい利用者に「ありのままを受け入れて欲しい。」と職員に理解を促している。又、職員のストレスが溜らない様食事会や登山に誘い、精神的配慮にも心掛けている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の制度を利用しておられるご利用者がおられる。成年後見制度について学べ、成年後見・権利擁護相談が受けれるようリーフレットを設置し、ホームへ来られる方へ情報提供も行っている。	現在は制度を活用している利用者はないが、先日まで該当者がいた為職員は理解している。管理者はリーフレットを準備し、職員や来所者には意識付けしているが、契約時に家族に伝える等の説明はしていない。	契約時に制度について家族に伝え、説明をされてはいいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書をわかりやすく説明し、不安や疑問点を確認し、理解していただけるよう取り組んでいる。報酬改定の際は書面にて、改めて説明し同意を得ている。	契約前には居住環境等を見学して欲しい旨伝えられている。契約は事業所で行い丁寧に説明している。重度化した場合や看取りに関する指針を示し文書で同意を得ている。家賃や光熱費等の使用料金改定に関しても、丁寧に文書で説明し了承を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご利用者とご家族に出席してもらい意見をいただいている。ご利用者からのご意見をいただけるよう改まった場所だけでなく日常会話からも思いを引き出せるよう信頼関係が構築できるよう取り組んでいる。	利用者からは個人的な要望等が多い。「食事会に行きたい」や「買い物に行きたい」等の意見が多く外出の機会が増えた。当初、帰宅願望の強かった利用者から、最近「お兄ちゃん。ここにいてもいいよ。ここは良いとこじゃけん」と言われ、職員は励まされ、モチベーションが上がった。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改めて聞き取る機会は設けていないが、意見や提案がしやすいよう心掛け、その都度改善できるよう話し合っている。	敷地が広く洗濯干し場が遠いので、移動の要望をしたところ、職員の負担を軽減するよう、建物近くの新しい場所に設置された。外食の機会は良くあるが、近隣で喫茶店やハンバーガーショップでの軽食の機会を取り入れては、との意見が出ている為、管理者は検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員と話をする機会を持ち、日々のかかわりから、現状把握に努め、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務に生かせるよう外部の研修などをうける機会を確保している。さらに、毎月内部研修を行っている。		

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三木市高齢者ケア研究会及び、グループホーム連絡会へ参加し、他事業所との交流と意見交換を行いサービスの向上に役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や面談時に、ご本人の思いを少しでも多く聞き取り、新しい環境にも安心していただけるよう努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを聞き取り、職員間で情報共有できるよう努めている。入居後の様子は、ご家族の状況に合わせ詳細にお伝えし、家族との連携・信頼関係の構築に努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況と、望んでおられる生活を勘案し、必要に応じて他サービスの利用も含め現状と今後の可能性を話しあっている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴を把握、意思を尊重し、自身で行えない部分を支援していく事を基本に支援している。日々の生活の中で、本人と共に支え合う関係が築けている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者の様子を毎月のお便りでつけたり、面会時に日頃のご様子をお伝えする等、ご家族と話す機会を持ち、思いや望まれていることをくみ取るよう努力している。ご家族にも参加していただける行事を催し、ご家族とご利用者・職員の共有の時間が過ごせるよう努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅の近隣の方が訪ねてきてくれる。近隣の買い物への支援を行っている。	入所後も老人会に加入している利用者がおり、地域の敬老会の記念品等が届けられる。スーパーには個人の買い物や、お菓子、衣類の購入希望時には出かけている。理美容は指定の業者が来所し整髪している。地域の行事には年に数回参加している。	

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	個々のご利用者の関係性を考慮し、交流で できるように座席を配慮する。また、ご利用者 同士が交流できるよう職員が話題提供をして いる。できないことをできる利用者がお手 伝いをし支え合っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の援助者に対し、詳細に書面・ 口頭で伝えるようにしており、また契約が終 了したとしても、ご家族からの相談に応じて いる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	アセスメント時に思いや意向の把握に努め ている。またご本人・家族への聞き取りを随 時行い、希望や意向の把握を行っている。 自身の思いが表現できるよう聞き取り方にも 工夫している。	職員は1対1の担当制であり、利用者の生活歴 や家族環境等を把握している。コミュニケーション が取りにくい利用者もあるが、多くの声掛けにより 笑顔が引き出せるよう努めている。また、着衣の 選択等自己決定に繋ぐ支援をしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人やご家族、サービス提供者より情報 収集。自宅へ訪問するようにし、又入居後 にもご本人との会話の中から入居前の生活 状況の把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	職員それぞれが実施したことや、感じたこと の情報を記録し、情報共有するよう努めて いる。日常生活以外にもレクリエーション 等で出来る事の把握に努めている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご利用者の状況に合わせ随時検討したり、 モニタリングを実施し、月に1回はケアカン ファレンスを行っている。また、日々の小さ な変化や気づきを申し送りノートに記入し職 員で共有している。	ケアマネは介護記録や毎月のカンファレンスに より、モニタリングしている。可能な限り、利用者、 家族にもサービス担当者会議に参加依頼し要望 を聴き入れ、半年ごとにケアプラン作成している が、サービス担当者会議の記録はない。	サービス担当者会議録は必要であり残 して頂きたい。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の実施、申し送りノートを利用 し、様子の記録、気づきや提案を記録し職 員が情報を共有できるようにし、随時相談し 実践している。		

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々要望に応じた対応ができるように、取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・スーパー等の店舗・美容院など地域資源を活用。	
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を尊重し医療機関の選択をして頂いている。状況により、必要な診療科目を受診の場合はご家族に相談し判断。 ご家族の付添による受診の際は、医療機関へ同行する等、情報提供を行い滞りなく診察が受けられる様支援している。	馴染みの病院を希望する利用者もいるが、大半が地域の内科クリニックをかかりつけ医として月2回往診がある。24時間連携の訪問看護とともに、緊急時にはすぐに連絡がとれる。歯科訪問は毎週で、特に口腔ケアの重要性については理解しており、食後の歯磨きは定着している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約。状態観察を行い、日々の軽微な変化についても早期発見ができるよう努め、看護師・主治医に随時連絡・相談し適切な受診や看護・介護が受けられるよう指示を仰いでいる。	
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院手続きにも同席しケアのポイントを伝えるとともに情報提供書にて、情報の提供を行っている。入院中には病院に伺いご家族や地域医療連携室と連携を取りながら、退院後の生活に支障がないよう取り組んでいる。	この1年で、利用者数名が骨折などの疾患で入院し、退院して事業所に戻ってきた利用者もいる。入院中は面会に行き、状態を把握し、病院関係者と積極的に連携し退院に結びつける。健康管理については、早い段階で介護職が異常に気づき、医療につなぐよう気をつけている。
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し変化があった場合はホームでできることを検討、ご家族に状況とホームで出来る事を説明し理解いただいている。また、医療関係者との連携を図っている	重度化や看取りに向けた指針は作成し、契約時に同意書を記入してもらっている。天寿を全うする利用者の看取りについては、生半可な気持ちでなく、専門職や介護職の共通意識のもと、万全の体制で行うべきであると考え、そのための看取り教育を充分行ってから取り組みたいと管理者は考えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時に対応できる様、マニュアルを作成している。	

自己 第三	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を2か月ごとに実施し、ご入居者も参加し緊急時の対応につなげられるよう、取り組んでいる。 火災の時には緊急事態であることが地域へ伝達できるようサイレンを設置している。	避難訓練は2か月ごとに職員が利用者と一緒に行う。消防署の協力で、避難経路の確認、消火器の使い方など訓練を実施している。また、災害に備え、3日分の水や食料の備蓄をしている。夜間想定避難訓練を行っていないので、今後は計画に組み込む予定である。	夜間想定訓練は是非実施していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれが、ご利用者の性格や生活歴を考慮し、人としての尊厳を尊重した対応や声掛けを行っている。	利用者は「さん」で呼び、できるだけ標準語で話すようにしている。排泄の声かけは耳元で小声で行うなど配慮し、ノックの回数はトイレでは2回、居室は正式マナーに則り4回としている。居室に入る際は、利用者の了解を得て入るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者とのコミュニケーションに努めることによりご本人の希望や思いを聞き取り、好み等を少しでも多く把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の支援にならないことに努め、その人らしい生活が送れるようご利用者に意思決定していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度、訪問理美容サービスを利用し、希望に応じたカット・カラーを実施。その日着る衣服の選択をしていただいている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・下膳・片づけをご利用者の状態に合わせて行ってもらい、昼食は職員も一緒に食事をとり、会話のはずむ楽しい食事に配慮をしている。また、その日の献立を話題にし、食事が楽しみになるようにしている。	業者の作成した献立で、半調理のものが届き、温めたり、量や形状など利用者の状況に合わせて提供している。時には流しそうめんや豆乳鍋などの季節感ある食事に変更したり、手作りおやつを利用者と一緒にも作ることもある。職員は利用者と一緒におしゃべりしながら同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや体調管理を考慮し主食を決定。水分摂取量の少ない方や水分制限のある方は特に留意し、摂取量を記録することで把握している。嗜好に合わせたものを提供し適量摂れるよう努めている。		

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人のできない部分を援助しながら、個々に応じたブラシを使用しケアしている。	
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。排泄記録を付けることで、個人の排泄パターン・習慣を理解するよう努めている。ご利用者に合わせた声掛けをし誘導等必要な援助を行っている。	布パンツ利用者が約半数で、他は紙パンツを利用し、夜間にポータブルトイレを設置している利用者もいる。トイレに行きたいときに行くことができるよう自立に向けた排泄支援をめざし、個別に利用者のパターンを把握して声かけをしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量を記録し、水分量の確保と、運動量が確保できるよう支援している。それでも排便見られない時には、医師の指示通り緩下剤を使用。	
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、入浴を実施している。ご利用者のタイミングで入浴できる様支援している。入浴を楽しんでいただけるよう、入浴剤を数種類置き、ご利用者に選んでいただいている。	月・水・金を入浴日とし、それ以外の曜日は外出にあて、週に一人3回程度入浴している。午前と午後のどちらでも入浴ことができ、好きな入浴剤を選んだり、石鹸とは別に洗顔フォームを使用している。入浴を拒む利用者については、時間を空けたり人を替えるなどの工夫をしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人のペースに合わせて、過ごして頂き、ご本人の好みに応じた寝具を準備し環境を整えている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情にて各職員が理解できる様ファイルしており、薬の変更があった時には特に注意して様子観察を行うようにしている。配薬時と介助時の二度確認し誤薬の起こらないよう対策している。 そして、服薬時には個々に合わせた介助を行っている。	

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族からの情報を聞き取ったり、日々の生活で知り得た事やレクリエーションを通じて発見したことなど、職員間で情報を共有し、ご利用者が役割を果たせたり楽しみとなるよう取り組んでいる。	
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外のベンチに座ったり、畑に出たり敷地内で、外気に触れる機会を設けている。ご利用者の希望を聞きながら月に1度は全員で外出する機会を設けている。ご家族の協力で個別の外出の機会もある。	天気の良い日は広い敷地内外を散歩をしたり、外気浴をするなど、できるだけ外に出る時間を作っている。毎月全員で、職員が企画した地域の身近な観光地に出かけ、外食などを楽しんでいる。家族と外出したり、自宅に日帰りする利用者もいる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方もおられ、買い物の機会を持ってもらい、ご自身で支払える支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りのできる支援体制にあるが、実施されている方はない。家族・知人からの電話はコードレス電話を利用してプライバシーに配慮し電話連絡できる。	
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾物や制作物を飾ったり、花植物で季節感を取り入れ、居心地良く過ごせるようソファの設置を考慮したりBGMを流すなど配慮している。	利用者が日中過ごすリビングは食堂、台所が一体的で開放感があり、地域のイベントを開催する交流の場にもなっている。全面ガラスの窓からは陽が入り、季節感ある自然の風景が居心地良い空間を演出している。壁には絵画や利用者が作った制作物が飾られ、スタッフルームに利用者が自由に出入りして会話をしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士が会話できるよう配慮している。ソファでテレビを見たり、ソファで横になったり、自由に過ごされている。	

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられた、使い慣れた馴染みのあるベッドやタンス、調度品を持参いただけるようご家族に依頼している。	一人ひとり居室の表札と飾りが異なり、自分の部屋がわかるように工夫されている。施設のエアコン・カーテン・温湿度計以外は、使い慣れたベッドや整理ダンス等の調度品を利用者が持ち込んで落ち着いた部屋になっている。家族写真や誕生日カード、事務所で作った賞状、カレンダー等が壁に並び、温かい雰囲気を醸しだしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者に合わせた居室の表札を工夫したり、トイレ等の場所がわかりやすいように工夫している。身体状況に合わせて居室内のレイアウトを変更している。		